

春秋会

ニュースレタ

—
2021.10



今月の予定

・10月26日(火)午後6時～7時30分@ZOOM
「第3回研修企画「着こなし方相談所(仮称)」」

『「広報で もっとつながる 弁護士会」—アピールちょっと 足らんのちがう?—』

令和3年9月22日に、春秋会政策委員会主催シンポジウム「『広報で もっとつながる 弁護士会』—アピールちょっと 足らんのちがう?—」が開催されましたので、ご報告させていただきます。

本シンポジウムでは、パネラーとして、大阪弁護士会広報室室長の高橋司弁護士、遺言・相続センター運営委員会委員長の蝶野弘治弁護士、福田健次会員の3名の弁護士に加え、フリーアナウンサー・朗読家であり、大阪弁護士会監修・協賛のMBSラジオ「弁護士の放課後 ほな行こか〜」でも長年パーソナリティを務めていただきました水野晶子様のご4名にご参加いただきました。また、司会を由良尚文会員に、コーディネーターを黒田愛会員にご担当いただきました。



シンポジウムは、パネラーの皆様より、本日のテーマである広報に関する各々のキーワードを手書きで挙げていただくことから始まりました。

まず、初めに、高橋弁護士より、大阪弁護士会広報室の立場より、大阪弁護士会における広報の現状についてご報告をいただきました。広報においては、広報手段の選択や広告内容といったコンテンツそのものだけでなく、個々の事務所との広告競合の問題や、費用捻出の点等、様々な制約の中で苦労されていることが伺われました。

その後のパネルディスカッションでは、水野アナが、収録のため頻りに弁護士会を訪れていたものの未だに弁護士会館に入る際に緊張する、「辯」の字(大阪弁護士会入口のプレート)が読めない、入口が分かりにくい敷居が高い等といった、弁護士ではない水野アナだからこそその感想を率直に語っていただけたことが印象的でした。また、水野アナからは、ラジオ番組における弁護士との交流を踏まえ、個々の弁護士について、法律外のエピソードは非常に面白いのに、法律論や弁護士活動がテーマになるとたんに面白さが失速する人が多く、その理由として、話の中に一般人が分かりにくい漢字が多いこと、また、弁護士は、1テーマにつきすべてを話し尽くさないといけないと思っているのではないかとということが考えられるとの分析を披露いただきました。法律論における正確さの追求と、一般の方に対する説明の分かりやすさの両立の難しさを改めて感じる一場面でした。

次に、福田会員より、大阪弁護士会総合法律相談センターの実情につき、ご紹介をいただきました。また、福田会員からは、総合法律相談センターが一般の方に最も身近で接点のある機関であるとのこと認識の下で、相談件数の増加や報酬増額に力を注ぐとともに、一般の方に対するアピールについても検討する必要があるのではないかと問題提起がありました。

また、特に、一般の方へのアピールという点からは、今後、弁護士の専門性がキーとなるということで福田会員から若手の代表(ご本人は疑問を呈されていましたが)として遺言・相続セ

ンター運営委員会委員長を務める蝶野弁護士に対し、法律相談センターの位置づけ等についての質問が投げかけられました。

蝶野弁護士からは、弁護士会館で実施される法律相談の減少しているように体感している、広告解禁後についても総合法律相談センターとしての広報はさらに改善の余地があるのではないかと、といった具体的なお意見をいただくとともに、一般の方において、相続・離婚・交通事故といった分野ごとの法律相談を受けたいというニーズが存在していると思われるので、このようなニーズを捉えることも必要でないかのご指摘もいただきました。

一般の方において専門性に長けた弁護士に相談をしたいというニーズは確かに存在すると思われる一方で、そもそも、自身の相談が何を問題にしているか、「相談の相談」を求めている方も一定数はいらっしゃると思われ、また、「専門性」を誰がどのように評価するのかといった「ものさし」の問題も依然として存在しており、この点はさらなる検討が必要であると感じられたところでした。



続いて、蝶野弁護士より、遺言相続センターにおける取り組みについてのご報告がありました。遺言相続センターでは、電話相談の受付を平日に行っている他、4月15日を「良い遺言の日」としてイベントを開催する等、非常に精力的な活動をされている様子が伺われました。

遺言相続センターの活動に関連して、再び弁護士の専門性に関する話題に移り、水野アナから、一般の方々の感覚としても、特定分野に強い弁護士を知りたいというニーズが存在すると感じるとのご意見がありました。これについて、福田会員より、弁護士の専門性というニーズに応えるにあたって、法律相談センターとして特定の弁護士の専門性を認定する仕組みを構築することの難しさといった問題があるとの指摘があり、引き続き、この点についての検討の必要性が感じられる位置場面でした。

その後も、弁護士会における広報を中心としたざっくばらんな意見交換が進められましたが、特に印象に残ったのは、水野アナから指摘のあった、①「特定分野+弁護士」でネット検索をかけると弁護士会ではなく特定の法律事務所のウェブサイトが検索上位に表示される状況なのでこの点を改善できないかという点、②大阪弁護士会における各分野の活動が委員会ごとに区割りされているように感じるが、この「委員会」というものの自体がわかりにくいという点、③大阪弁護士会のウェブサイトにおいて弁護士に依頼したときの報酬がどれくらいになるかがわかりにくいという点、の3点でした。

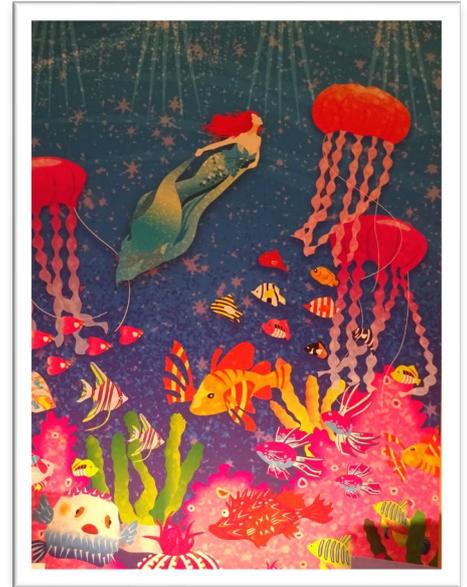
水野アナからは、③の点について、引越費用の見積りサイトのようなものが分かりやすいとのご意見もあり、弁護士費用の算定の難しさを日々感じる身としては、実現には大変な困難があるだろうと感じられるものの、一考に値するものと感じました。

最後に、パネラーの皆様からの一言があった後、濱田幹事長から閉会のご挨拶があり、無事、本日のシンポジウムが終了しました。

さて、リトルマーメイドといえば、海の中の物語。生身の人間が演じるミュージカルにおいて、海の中の様子をどのように表現するのか、疑問に思っていたのですが、いざ本番が始まると、劇団四季の表現力に圧倒されました。

海中のシーンでは、照明の色・模様や舞台装置で海底の様子を表現するのはもちろん、人魚や魚を演じる方々は、海中での場面では常に体を少しうねらせ、波に揺られているように見えるんです…！特に、アリエルを初めとした人魚役の方々は、フライングという装置を使って空中に浮かび、水中を泳ぐような動きをすることがとても多いのです。観劇当時は、“体幹すごい…”という素人並の感想しか出てこなかったのですが、プロとして感情豊かに演じきる姿は、本当に圧巻でした。

また、舞台装置の上下により、海底と陸を行き来するような舞台転換がスムーズに行われていました。見ているうちに、客席も海中と海底を行き来しているのではないかと錯覚してしまう程です。



それに、なんといっても、会場中に響き渡る役者の方々の歌声に聴き惚れました。アリエルが、陸で集めた宝物を置いている部屋で「パート・オブ・ユア・ワールド」を歌うシーンがすごく好きなのですが、アリエルの6人の姉が言うように、「鈴の音」のような綺麗な歌声に、心が洗われるようでした。

コロナ禍のおかげで、諸先輩方との交流の機会に恵まれない中、コロナ対策を徹底した上での優雅な一時を過ごすことが出来ました。本企画をご準備いただいた親睦委員会の皆様、特に竹中親睦委員長、満村先生、中江先生、湯浅先生、本当にありがとうございました。

コロナ禍終息の気配はまだありませんが、感染対策という制約なしに、親睦企画を通して皆様と交流できる日々が来ることを願っております。



(加門亜弥会員)

フジロックに行ってきました

8月21日～23日、新潟県の苗場で開催されたフジロックフェスティバル2021（環境省・観光庁・新潟県・湯沢町・南魚沼市が後援）に参加してきた。日本最大級の音楽フェスで、海外ミュージシャンも数多く参加するが、昨年の延期を経た今年のフジロックは、コロナ禍のもと、日本のミュージシャンを中心に、参加者の数も制限され、酒類の販売も禁止される中での異例の開催となった。



勿論、開催には賛否両論があり、直前には、出演者のキャンセルも相次いだ。トークショーに出演する予定であった津田大介や小泉今日子もキャンセルを表明し、シンガーソングライターの折坂悠太も、「感染者が一人も出なかったとしても、直接的、間接的にもたらす影響が、遠い場所で、死角にいる一人の人生を変えてしまう。」「舞台に立つ事は、それ自体がメッセージです。今は、想いと整合が取れません」とツイッターでコメントして辞退を表明した。

一方、出演をしたSIRUPは「同じ「仕事」でありながら、パンデミック初期からエンタメ業界や飲食店など特定の業種が槍玉にあげられ、政府の援助や社会的援助が不十分なまま、「自助」だけで対策するには限界があります。」と述べ、同じく出演を決めたDYGも「この状況では迷いながら出演する事も、迷いながら辞退することも、音楽家にとっては地獄です。分断を生み、憎まれながらやる音楽なんか続けられないと辞めていく人も、この先増えていくかもしれない。」と苦しい胸の内を綴った。

私自身、参加に少なからずの躊躇があった。事前の抗原検査キッドの無償郵送、常時マスクの着用や酒類の販売禁止、事前登録と入場の際の検温など様々な感染対策がとられていたが、何となくの不安がつきまとう。それでも、この舞台に立つと決めたミュージシャンの熱いステ

ージの連続に、参加して良かったという思いが強まっていった。「来年は宿を開めているかもしれない」と不安を溢す民宿のオーナーの話も心に残っているし、会場ではノンアルコールビールの美味しさに初めて気付くことができた。

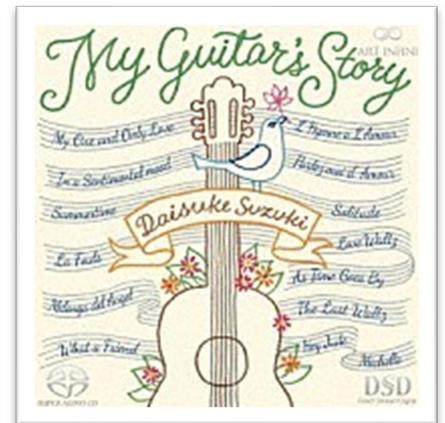
感動したのは、辞退を決めたミュージシャンも、出演を決めたミュージシャンも、互いをリスペクトしていたことである。分断を煽ろうとするかの如くのSNS上の批判も多々あったが、コロナの終息を願うのは誰しもが同じである。私自身、今回のフジロックに参加したことを100%正当化するつもりもないが、開催や参加の是非で対立するばかりでなく、より安心・安全な文化イベントを実施するために真剣に知恵を出し合うことも大切ではなからうか。色々なことを考えさせられたフジロック2021であった。

(中森俊久会員)

今月の一枚 ～ギターに耳をすます～

ようやく涼しさが戻ってきて、日がすっかり落ちてからの家路も、少し歩いてみたくなる。そろそろ中秋かなと青い月の満ちゆくのを眺めたり、そよ吹く風にマスクを外して頬をあてたりする。草むらには虫の音が囁いている。立ち止まってそっと耳をすましてみる。あれは蝉、奥の方は蟋蟀か。

そんな夜には窓を少し開けて外気を感じながら、アコースティック・ギターの音色に耳をすます。鈴木大介さんの演奏だ。



鈴木さんは、作曲家武満徹から「今までに聴いたことがないようなギタリスト」と評されたクラシック界出身のギタリストだが、活動の幅はとて広い。数多くの現代音楽家を魅了して新作を提供され、スペインの古典大全も弾きこなす傍ら、「キネマの楽園」シリーズでは数々の映画音楽をギター編曲で蘇らせる（中でもニュー・シネマパラダイスは絶品）。さらには、伝承歌、ジャズ、ブラジル、ラテンやシャンソンの名曲、モーツァルトからドビュッシーまでの古典をギター作品として奏でる（「月の光」の美しさ）。タンゴや即興演奏界の名手鬼怒如月さんとのギターデュオ・The DUO では、2つの才能が融合した独特の音空間を展開する（キースジャレットの名曲“カントリー”の切なく懐かしい響き）。

その鈴木さんが、今年50歳の節目に、アルバム『ギターは謳う』を発表した。武満徹編曲の「ギターのための12の歌」を中心に、自身の編曲による古今の名曲を加えた集大成となる作品である。

「ギターのための12の歌」は、武満が鈴木さんに全曲演奏をしてほしいと託した作品で、ダニーボーイやサマータイム、早春賦からビートルズナンバー4曲を含む武満が愛した世界の歌をギターソロに編曲したもので、武満独自の空間が美しい。今回鈴木さんは、スペインの名器イグナシオ・フレタ・エ・イーホス1964を弾いて20年ぶりの再録音を果たした。

聴きながら改めて思うのは、彼の演奏が「今まで聴いたことがないような」のは、おそらくその独特の「間」だ。生ギターは弦をはじいて出ては消える短い音を紡いでいく楽器なので、音と音と

の間合いが大事になる。というよりむしろその「間」を聴かせる楽器なのかもしれない。鈴木さんの繰り出すギターは、古来日本人が愛してきた琵琶や琴にも通じるような馥郁とした「間」を感じる。そして「声にならない詞や想い」が無言歌となって聴く者の心に沁みこんでくるようだ。

「間」を紡ぐギターの音にじっと耳をすましながら、今年の秋が深まってゆく。

※ 『ギターは謳う』は残念ながらまだ配信がありませんので、ぜひCDで聴いてみてください。

いくつかの曲は動画でも聴くことができます。

ガーシュイン：サマータイム

<https://youtu.be/ef-SnmJfLto>

ジャン・ルノワール：聞かせてよ 愛の言葉を

<https://youtu.be/6fl9koN3mQA>

ビートルズ：イエスタデイ

<https://youtu.be/rIXqQGmBt8Y>

鈴木さんの全貌を知るには Daisuke Suzuki the Best 2019

https://open.spotify.com/album/4KpRTg2QF9hjuysGKAY8jK?si=89Iz5EZNT1a2TZ09vD9RgQ&dl_branch=1

The DUO のデビュー作もぜひ

https://open.spotify.com/album/2vsDiER5QiSPNT4tilC6rF?si=7r6gS4M3SigaJhhYKe_1gw&dl_branch=1

(青木佳史会員)

破産法〇×クイズ【資産調査編】

- Q 1 家計収支表を提出する際、申立人が今後、借入することなく経済的再生ができるのかをみるために、光熱水費に関する領収書・引き落とし口座の写しを提出する必要がある。
- Q 2 同時廃止の財産目録のうち、保険については、申立人本人の保険のみならず、家族名義分の保険も記載する必要があるが、破産者の収入で保険料が支払われていないのであれば、記載する必要はない。

Q3 同時廃止申立の場合、申立人のみならず、現在又は申立前2年以内に同居親子が不動産を所有している場合には、不動産登記全部事項証明書を必ず提出しなければならない。

(回答はこちら : osaka-shunju-kai.com パスワードは、「sjntnt」)

執行部便り

秋も深まってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。若手会担当副幹事長の70期の稲生と申します。

秋といえば、新米、秋刀魚、キノコにサツマイモ等、美味しいものだらけ、かつキャンプシーズン！（キャンプは夏ではなく10月頃が一番気持ちいいんです）。あちこちお出かけして秋を満喫したいところですが、中々コロナの影響で外出が難しく悶々とした毎日をお過ごししております。

さて皆様の中には、入会直後からコロナ禍で親睦を深める機会が少なく、「若手会って何??」という方もいらっしゃるかと思います。

若手会とは・・・入会から10年以内の若手会員による、サブ会となります。

例年であれば、入会後の新人歓迎会、夏にはビアパーティ等、様々な親睦行事があり、同期や期の近い会員と知り合うことができる絶好の機会となります。

事務所外に同期や期の近い仲間がいれば、ちょっとした仕事、悩み事の相談等ができ、本当に心強いものです。

そこで、実際にお会いしての親睦はまだ先になるかと思いますが、まずはZOOMを使って飲み会を開催いたします！（予定）

日程が決まりましたら、リリースいたしますので、どしどし参加してくださいね。

(稲生貴子会員)

2021 年度 広報委員

・広瀬 元太郎

(60期:委員長)

・柳 勝久

(61期:広報担当副幹事長)

・有村 とく子

(50期 2019年度委員長)

・中森 俊久

(55期 昨年度委員長)

・山口 昌之

(58期 昨年度副幹事長)

・浦 寛幸 (59期)

・木場 晶子 (67期)

・田村 瞳 (67期)

・吉留 慧 (68期)

・信吉 将伍 (69期)

・高 一成 (69期)

・根本 俊太郎 (70期)

・佐久間 ひろみ (71期)

・足立 敦史 (71期)

・村本 健司 (71期)

・河野 哲平 (71期)

・才木 晴幹 (72期)

・久井 大輝 (73期)



ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 変わった国に行った旅行記
- 3 ペットや趣味の紹介
- 4 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます(もちろん、一定の審査はさせていただきますが…)

Ghirose2021@vega.ocn.ne.jp (広報委員長のメール)



会報・ニュースレター閲覧状況

広報委員会電子刊行物のアクセス数 (9月30日現在)

- | | |
|-------------------------|------|
| ・2020年度会報春号 (他会派にも公開) | 2140 |
| ・2020年度会報秋号 (9/24 配信以降) | 730 |
| ・ニュースレター9月号 (春秋会のみ公開) | 486 |